

第 1 章 エコツーリズムとは.....	21
1-1 エコツーリズムについて	21
1-1-1 エコツーリズムの考え方	21
1-1-2 エコツアーの考え方.....	22
1-1-3 エコツーリズム推進に当たっての 3 つの重要な要素.....	23
1-1-4 エコツーリズムに関わる主体	25
1-1-5 エコツーリズムと観光サービス.....	27
1-1-6 エコツーリズムの効果	29

第1章 エコツーリズムとは

1-1 エコツーリズムについて

1-1-1 エコツーリズムの考え方



～ポイント～

- エコツーリズム＝自然（歴史文化）の体験・学習型観光
- 自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方

エコツーリズムとは、自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方である。自然の成り立ちや歴史・文化が持つ深い意味を分かりやすく解説し、来訪者に大きな感動をもたらす。それが経済行為として成り立つ。そのことが、地域の自然環境や歴史文化を尊重し、守っていく行動にもつながり、成功すれば、環境と経済の好循環の一例となる。

もともと途上国の自然保護のための資金調達手法として取り入れられたエコツーリズムの考え方は、持続可能な観光のひとつの領域として先進国でも展開されており、2002年を国連がエコツーリズム年とするなど、国際的にも定着した用語(ecotourism)となっている。

エコツーリズムの実現のためには、旅行者や観光事業者だけでなく、地元住民や地域の様々な産業を含む、地域における包括的、横断的な取り組みが必要である。エコツーリズムの推進は、「環境」「観光」「地域」が深い関わりをもちながら取り組む社会の仕組みづくりである。

第1章 エコツーリズムとは

1-1-2 エコツアーの考え方



～ポイント～

- エコツアー＝エコツーリズムの考え方を実践するためのツアー
- 自然豊かな地域に限らず、里地里山や都市地域内の自然など、どのような地域でも成立する

エコツアーとは、エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーであり、わが国では自然だけでなく、地域ごとの個性的な歴史や文化もツアーの魅力の大きな要素となる。従来典型的なものと考えられている日本を代表するような優れた自然の中を探訪するツアーだけではなく、生活文化を題材としたような体験ツアーもエコツアーの範疇である。

このように捉えれば、エコツーリズムは、自然豊かな地域に限らず、里地里山や都市地域内の自然など、どのような地域でも成立すると考えられる。平成16年から平成18年にかけて実施された「エコツーリズム推進モデル事業」(環境省)では、全国に13のモデル地区を指定し、それらを3つの類型に分類した。

類型1：豊かな自然の中での取り組み(典型的エコツーリズムの適正化)

類型2：多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み(マストツーリズムのエコ化)

類型3：里地里山の身近な自然、地域の産業や生活文化を活用した取り組み
(エコツーリズムで地域づくり)

このように、わが国においてエコツーリズムはどの地域でも取り組むことができるものである。

エコツアーの種類	エコツアー一例
原生的な自然におけるガイドツアー	国立公園およびその周辺でのトレッキングツアーやキャンプツアー
特徴的な野生生物とのふれあい	ホエールウォッチング、野鳥観察会、ホタル観察会
自然の営みに触れる観察会への参加活動	星空観察会、自然散策会
環境教育を主目的とした学校団体の活動	修学旅行の体験プログラム
農林業などを体験することで自然への理解を深める活動	田んぼの生き物調査、植林・下草刈り体験
自然や文化に関する解説を受けながら地域を歩き巡る活動	名所めぐりツアー、里山ウォーキング
地域の生活や文化を体験する活動	里山の管理・再生を学ぶ、古来の生活の知恵の学習
環境保全のために実際に貢献をする活動	外来種の駆除のボランティア、植生回復ボランティア
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動	体験滞在型観光

1-1-3 エコツーリズム推進に当たっての3つの重要な要素



～ポイント～

- ルール＝地域の自然や文化を保全、維持するための取り決め
- ガイドンス＝地域の自然や文化に対する知識や経験の案内
- モニタリング＝地域の自然や文化が損なわれないよう調査・把握

エコツーリズムとは、エコツアーを継続的に実施していくための社会の仕組みであるともいえる。エコツアーを継続していくためには、エコツアーの商品力が確保され続けること、そしてエコツアー実施の場や解説の素材となる地元の自然や文化がいつまでも保たれることが必須の要件である。

エコツアーの商品力の源泉は、旅行者がツアーの中で気づき、発見する情報によっている。一般的な観光ツアーとの大きな違いは、エコツアーでは、単に見るだけでは気づかない、知ることができなかったことをガイドや様々な情報ツールなどの案内によって、地域の魅力を発見し、感じとり、体験の喜びを楽しむことにある。このような旅行者への情報提供や体験活動を通じた働きかけは「ガイドンス」とよばれている。

また、ガイドンスの対象となる地域資源や、ガイドンスの場となるフィールドが、エコツアーの実施によってダメージをうけ、魅力や価値を失うことは、エコツアー継続にとって最大の妨げとなる。資源の魅力を維持し、保全していくためには、地域資源の活用に関する関係者の共通理解が大切であり、保全に関する取り決めに明らかな「ルール」づくりが役に立つ。ルールの策定によって、地域の自然環境や文化の保全に責任を持つ観光のあり方が具体的に表わされることになり、エコツーリズム推進に対する関係者や地元住民の関心が高まる。さらに、エコツーリズムに具体的に取り組む地域としてイメージが向上し、観光地としてのブランド力の発揮も期待できる。

また、地域の自然観光資源などが損なわれないよう科学的な視点から調査・把握することを「モニタリング」と呼び、持続的な取り組みとするためにはその結果を適切に評価してルールやガイドンスに反映させていくことが必要となる。

以上のように、「ルールの策定」、「ガイドンスの実施」、「モニタリング」がエコツーリズム推進に当たっての重要となる要素である。

(1) ルールの策定

エコツーリズムにおけるルールとは、エコツアーの継続的な実施のために地域資源の保全や魅力の維持を目指した具体的な取り決めの内容である。野生動植物や生態系の保全のために採取を禁止する、外来種の持ち込みを禁止する、野生動植物の生息環境の保全のために立入区域を制限するといったエコツアー事業者や旅行者に対して適用されるルールがエコツーリズムにおける代表的なルールである。

第1章 エコツアーリズムとは

(2) ガイダンスの実施

ガイダンスにより、旅行者は地域の自然や文化について深く理解し、新たな旅の発見や楽しみを得ることができる。深く自然や文化を理解するとは、知識や情報を得ることではなく、地域の魅力や自然と人間の関係などを体験によって実感することである。ガイダンスの方法や伝える内容は旅行者の感じ方の度合いで大きく左右するので、エコツアーリズムの成果に直結する。ガイダンスにはガイドによる解説、看板やパンフレットによるセルフガイダンスが含まれる。

(3) モニタリングの実施

モニタリングによって、地域の自然観光資源などが損なわれないよう科学的な視点から調査・把握する。

モニタリングを進める上での対象の選定に当たっては、その状態を的確かつ継続的に把握し、客観的に評価できるように留意する必要がある。

また、上記のモニタリング・評価の結果は、協議会などの関係者が参加する場で協議することによってガイダンス・プログラムやルールなどエコツアーリズムの実施の方法を見直すなど、評価結果を適切に反映する仕組みを構築することが重要である。

エコツアーリズム推進法などの該当箇所①

<法におけるエコツアーリズムの定義>

法では、エコツアーリズムを

「観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動」

と定義している。(法 第二条)

1-1-4 エコツーリズムに関わる主体



～ポイント～

- エコツアー事業者：エコツアーの実施を通して地域振興に貢献する
- 旅行者：経済効果をもたらす。エコツアーでの楽しい経験を通して環境意識を高める
- 自治体：エコツーリズムの推進を支援する
- 住民：地域の総合的な魅力向上に貢献する

エコツーリズムでは、それぞれの担当者が個別に環境保全や、観光振興に取り組むのではなく、これらの活動が相互に関連して進められることに特徴がある。エコツーリズムは、エコツアーを提供するエコツアー事業者、エコツアーに参加する旅行者を主役として、地域振興策としてエコツーリズム推進を誘導する地元行政（自治体）、エコツーリズム推進地域に居住する住民が、それぞれの役割を果たすことを通して環境保全や地域振興に相乗的な効果をもたらされる社会のシステムである。

(1) エコツアー事業者

エコツーリズム推進地域において、ガイド、宿泊業者、交通事業者などのエコツアー実施に関わる全ての観光事業者がエコツアー事業者である。エコツアーという観光サービス商品の提供によって、旅行者の観光消費を呼び込み、地域経済への環流を通して地域振興に貢献する。旅行者に対して、エコツアーの楽しみを通して環境への意識啓発を促す。自社の事業展開においては、ソフトとハードの両面で環境に配慮した運営を行い、地域の環境保全に直接貢献するといった役割を担う。

また、エコツーリズム推進地域に、エコツアー商品に参加する旅行者を送客する都市部の旅行者もまたエコツアー事業者である。

(2) 旅行者

旅行者は、エコツアーに参加し、その対価の支払いを通して地域振興や環境保全に貢献する。また、エコツアーに参加した楽しい体験を通して、環境保全に対する意識が啓発され、日常生活の場においても環境保全に配慮した行動をとるようになる。

(3) 自治体

行政は、エコツーリズムの推進を地域振興の柱として位置付け、エコツーリズム推進のために必要な各種支援策を実施する。

(4) 地元住民

エコツーリズム推進地域に居住する住民は、エコツアーの実施によって創出された

第1章 エコツーリズムとは

様々な観光サービス提供における雇用機会を活用して、エコツアーに直接的なかかわりをもつ。旅行者との友好的な交流を通して、エコツアー参加者の満足度を高める。エコツアー参加者の笑顔に触れることを通して、身近なところの美化や整備に努め、まち全体の魅力の向上に貢献する。地元の環境保全の重要性に気づき、環境に配慮した生活行動に努め、さらに地元の環境保全にむけた具体的な活動に参加する。

1-1-5 エコツーリズムと観光サービス



～ポイント～

エコツーリズムの観光サービスには、ツアー（プログラム）、宿泊、土産、交通などが含まれる。

エコツーリズム地域を訪れる旅行者はエコツアーの他にも様々な観光サービスと接する。宿泊、食事、土産物、交通など、旅行を構成する要素となる観光商品は、対象地域が目指すエコツーリズムの考えに基づくことが望ましい。

(1) エコツアー（プログラム）

エコツアーは、エコツーリズムの考え方を最も直接的に実践する観光商品である。フィールドの利用方法や解説の内容だけでなく、ツアー行程中の移動、食事、宿泊の内容に気を配るとともに、ツアーのテーマによっては地元住民との交流などにも配慮するとよい。

(2) 宿泊施設

宿泊は旅行先において、癒し、安らぎを与えてくれる観光素材であり、旅行者に対するメッセージ力は強い。

宿泊施設は、環境に配慮した設備を目指すとともに、ゴミ処理やエネルギーの利用方法などの施設運営にも工夫するようにする。また、館内で周辺の自然を紹介する展示を行う、宿泊客にエコツアーを紹介するなどのサービス面でもエコツーリズムとの関わりを目指すといよい。

(3) 食事

飲食業には、地元の食材を利用する、使い捨ての箸や紙皿の利用は避ける、廃棄物の処理を適切に行うことなどを通してエコツーリズムへの関わりが期待される。とりわけ、地元の食材の積極的な利用は、旅行者に地元の魅力をアピールするだけでなく、旅行者の消費を地域経済に波及させることにもつながる。

(4) 土産品

土産品店は、地元の特産品の販売や、地元住民の生産品の販売に気を配ることによってエコツーリズムへの関わりが深まる。物品の販売では、通信販売などの手段によって、継続的に地元と都市住民のつながりを持ち続けることも可能となる。

(5) 交通

エコカーなどの環境に優しい機材の導入だけでなく、アイドリングストップなどの運

第1章 エコツーリズムとは

転中の配慮によっても環境保全に貢献することができる。車内に地元の自然を紹介するポスターを貼る、地元と環境との関わりを記したチラシを配布するなど、旅行者に対するエコツーリズム情報の提供という面での工夫も期待される。

(6) その他

ドライブインや博物館などの観光施設についても、施設などのハード面、施設運営などのソフト面それぞれにおいて、エコツーリズムへの関わりを見い出し、積極的に取り組むことが期待される。また、観光地内のトイレ、駐車場など、旅行者との関わりが考えられる全ての施設や設備それぞれが、地元が目指すエコツーリズムにどのように関わることができるかを考え、実行することが望まれる。

1-1-6 エコツーリズムの効果



～ポイント～

- 自然環境の保全：地域の自然環境・文化資源に対しては、それらの価値が維持されるよう保全され、または向上する。
- 観光振興：観光業に対しては、新たなニーズに的確に対応し、新たな観光需要を起こすことができる。
- 地域振興：地域社会に対しては、雇用の確保、経済波及効果、住民が地域に誇りを持つこと等により地域振興につながる。
- 環境教育：旅行者、地域住民双方にとって気づきの機会となる。

エコツーリズムへの取り組みは、旅行者を迎え入れてエコツーリズムを実践する地域の自然環境や文化、対象地域の経済、エコツアーを体験する旅行者、エコツアービジネスを展開する観光事業者など、それぞれの立場で効果が期待できる。

(1) 自然環境や文化の保全に役立つ

①エコツアー参加者の環境保全に対する意識を高める

エコツアー参加者は、ツアーでの楽しい体験を通して、自然や文化に対する興味が起こる、保護への意識が芽生えることが期待できる。このような意識変化が、ゴミの分別やエネルギーの節約など、日常生活の中での小さな環境保全のための行動につながる。

②地域住民の地域資源の保全に対する意識を高める

地域住民は、エコツアー参加者が地元の素材に驚いたり、興味をもったりする様子を見て、地域の自然や文化の価値を再認識することが期待できる。このような意識変化が、地域の自然や文化をいつまでも大切に保全していこうという行動につながる。

③環境に優しい観光をしようという機運が広まる

エコツアーが各地で展開されるようになり、エコツアー経験者が増えることによって、一般的な旅行に参加するケースであっても、地域の自然環境に配慮した観光行動に心がける旅行者が増加する。

④取り決めによって自然環境を保護する

誘客による地域経済への貢献をいつまでも持続的に発揮させていくためには、誘客の根元である自然環境を持続的に守っていくことが必要である。

第1章 エコツアーリズムとは

(2) 観光事業にメリットをもたらす

①旅行者数の増加につながる

ア) 来訪者が増加する

エコツアーという新たな誘客魅力づくりによって、従来の旅行者に加えて、さらにエコツアーへの参加を目的とするマーケット層の来訪が期待できる。

イ) 日帰り客が宿泊化、宿泊日数が増加する

エコツアーは、2時間から半日程度、あるいは1日や数日間かけて実施されるプログラムなので、エコツアー参加者の増加によって、日帰り客の宿泊化や宿泊日数の増加が期待できる。

ウ) リピーターの増加と季節による客数変動が緩和される

エコツアーでは、季節に応じた素材を活用した季節ごとのプログラム、解説素材の組み換えによる異なるシナリオのプログラム、調査や研究によって解説内容をさらに発展させたプログラムなど、複数のプログラムの企画が可能なので、一度訪れた旅行者であっても再度来訪させ、リピーター化できる可能性がある。これによって、これまでオフであった季節の誘客も可能となる。

エ) 修学旅行の受け入れ増加による計画的な事業運営が可能となる

学習効果を高めるために旅行先で体験活動を取り入れる修学旅行や、総合的学習の時間に環境教育を取り入れるケースが増えており、エコツアーに対する期待が高まっている。修学旅行は、おおよそ1年前には実施が決まるので、エコツアーを実施するガイド業や、宿泊を受けもつ施設にとって、年間を見通した事業運営が可能となる。

②旅行者の今日的なニーズに対応している

ア) 「見る」観光から「体験」観光へ

国民の旅行に対する意識は、“特別な行事”から“日常活動の一部”へと変わってきており、これに伴い観光行動は、いくつもの観光地を見て回る「周遊観光」から、ひとつの地域にとどまって自らの体験を通して自然や文化を楽しむ「体験観光」への関心が高まっている。

イ) 子どもに「ほんもの」の自然体験を

科学技術の進展に伴い、パソコンやテレビゲームなどを通して居ながらにして様々な疑似体験が可能となった。他方、身のまわりの原っぱ、小川や池等の自然にふれあう環境が都会からなくなって久しい。このような状況下、子どもたちを自然の中で存分に遊ばせながら、森の香り、水の冷たさ、土の暖かみ、あるいは怪我をした時の痛みや恐怖などを感じてほしい、「ほんもの」の自然を体験させたいというニーズが高まっている。

ウ) 中高年齢層の旺盛な「行動力」と「知的探求心」を満たす

中高年齢層などを中心として、登山やトレッキングなどがブームとなっている。中高年齢層のトレッキングでは、歩くことそのものの楽しみに加えて、高山植物や野鳥などの観察もあわせて楽しんでいる。このように行動力のある中高年齢層が増加するとともに、旅先で知的探求心が高まっている。

(3) 地域の活性化への貢献

①地域の他産業への経済波及効果が発揮される

エコツーリズムでは、地域の特色を誘客に活かすことが特徴となっており、地域の人材を活用し、地場産品を食材などに用いることが多いので、一般的な観光より地域の他産業にもたらす経済波及効果は大きい。

②地域住民に活力をもたらす

解説のための素材探しを通して地域の歴史や文化が見直されることによって地元に対する自信がでる、エコツアー参加者との交流により意識の活性化が図られるなど、地域住民に活力をもたらすことが期待できる。

③大規模な投資が不要である

エコツーリズムには、大規模な施設開発が不要であり、人材育成とソフト（ツアープログラム）の開発によってなされるので、従来の観光開発に見られたような大規模な初期投資が不要であり、比較的容易に取り組むことができる。

④どのような地域であっても強い誘客力が発揮できる

“迫力のある滝”“美しい湖”“古いお寺”など、見る対象となる観光資源に過度に依存した従来型の観光とは異なり、ツアープログラムの内容が誘客力を左右するため、我が国を代表するレベルの自然や文化的な観光資源が立地しない地域であっても、地域固有の自然、文化、産業などを活かしたプログラムの企画開発によって、どのような地域であっても強い誘客力を発揮することが可能である。

(4) 環境教育への寄与

①旅行者にとって

エコツーリズムの一連の取り組みを通して環境教育の効果が発揮される。

具体的には、旅行者はガイドランス・プログラムへの参加をきっかけとして自然に対する理解が深まる。また、知識の取得や理解にとどまらず、人間と環境との関わりについて、正しい認識に立ち自ら責任ある行動をとることのできる人材の育成につながる。

②地域の関係者にとって

地域の関係者にとっては、エコツーリズムの一連の取り組みや旅行者などの参加者との関わりを通して、地域の宝としての自然観光資源の大切さを改めて認識し地域の理解や環境問題への関心を深めることになる。

エコツーリズム推進法などの該当箇所②

＜法におけるエコツーリズム推進の基本理念＞

「自然環境の保全」、「観光振興」、「地域振興」、「環境教育の場としての活用」が挙げられている。(法 第三条)

